上越教育大学研究紀要　第38巻第２号　平成31年３月
Bull. Joetsu Univ. Educ., Vol. 38(2), Mar. 2019

フリースクールにおける『学び合い』の導入による生徒の人間関係や学習意欲の向上

仲　本　卓　史*・西　川　　純**

（平成30年８月21日受付；平成30年10月29日受理）

要　　旨

本研究の目的は，フリースクールにおける『学び合い』の授業の導入により，不登校生徒それぞれの人間関係と学習意欲の変容を明らかにすることである。フリースクールの生徒や教師の会話記録やインタビュー，アンケートの実施・分析を行った。その結果，人間関係や学習への取り組む意欲が向上することが分かった。

KEY WORDS
『学び合い』　フリースクール　人間関係　学習意欲

1　問題の所在

平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題」に関する調査[1]によると，中学校における不登校生徒の割合は平成10年度から２％台が続いており，ほぼ横這い状態にある。また，同調査によれば「指導の結果登校するまたはできるようになった生徒の割合」は公立中学校で28.4％であり，不登校の解消は簡単なことではないことがうかがえる。

西川（2011）は，「クラスの人間関係が良くなると不登校は解消する」と述べ，『学び合い』による不登校生徒への対応を提案している[2]。『学び合い』とは西川（2010）が提唱しており，大きく２つの考え方からなっている。学校は多様な人と折り合いをつけて自らの課題を達成する場であるという「学校観」と，子どもたちは有能であるという「子ども観」である。『学び合い』では，教師が「教える」のではなく，子どもたちが自ら学び取るという教科指導を通して，徹底した「みんな」意識を持つ集団に育てようとする考え方である。『学び合い』における教師の役割は集団の管理者であり，不登校生徒にはたらきかけるのは，「みんな」意識を持った集団となる。

『学び合い』による人間関係の向上は，桐生（2003）が明らかにしている[3]。桐生は，中学１年生と２年生の異学年学習形態で総合的な学習の時間を仕組み，授業中の生徒の様子を分析している。その結果，生徒は「じゃれあい」を表出しながら活動を中断することなく，むしろ人間関係を高め合いながら学習を成立させていることを明らかにした。また，「じゃれあい」の出現には３段階あり，グループ結成初期の課題に関する会話だけでじゃれあいのない状態（第１段階）から，次第に親しい人とじゃれあいながらも，自然に課題に戻る状態（第２段階）になり，さらに，班員全員とじゃれあいながらも自然に課題に戻っていく状態（第３段階）に変容することも明らかにした。

さらに，岡沢（2015）は，『学び合い』授業により，不登校児童とその他の児童とは，学習課題の解決を通して人間関係を高め合っていることを明らかにしている[4]。

以上のことより，不登校気味でも学校に登校することができれば，『学び合い』の授業によって，人間関係や学習の意欲を向上させることができる。ただ，今回調査したフリースクールは，全寮制で五つの県から生徒が来ており，公立学校に比べると，出身地が多様である。さらに，チャレンジ登校や，体験入学等により，入れ替えも多く，生徒同士の繋がりはかなり乏しい。そのような厳しい状況だからこそ，生徒同士の繋がりを大切にする『学び合い』の授業を導入することにより，人間関係や学習意欲を向上させることが期待できる。

しかしながら，そのような研究は見当たらなかった。

2　研究目的

本研究の目的は，フリースクールにおける『学び合い』の授業の導入により，不登校生徒それぞれの人間関係と学

*豊見城市立伊良波中学校　　**学校教育学系

習意欲の変容を明らかにすることである。

3　研究方法

3．1　調査対象

N県フリースクール
職員数：４名
生徒数：８名（中１女子１名，中２男子４名女子１名，中３女子２名）

3．2　調査期間

平成28年10月～12月
期間中の10回の授業を記録した。

3．3　学習活動の手続き

授業は，全員が一つの教室に集まり，学年ごとに提示される学習課題を全員が達成することを目指して取り組む。問題解決の手段は生徒の主体的な判断に任せるが，『学び合い』では「最大の支援ツールは人」と考えることから，他者とかかわって学び合うことを奨励する。かかわる相手は生徒の判断により，教師によるグルーピングは行わない。各学年の学習課題は教科書の進度通りである。そのため，先の学習内容の見通しを持つことができ，全員の課題達成に向けて予習してくる生徒もいる。

『学び合い』の授業では，教科の学習課題を学習者の「みんな」が達成することが真の課題である。そのために教師は生徒が主体的に行動することを求め，「みんな」が課題を達成したか，「みんな」の課題達成に向けて生徒一人一人が持っている力を十分に発揮して行動したかを評価する。

『学び合い』の授業開始前にあらかじめ黒板に，全員が達成すべき本時の課題，全員のネームプレート等を掲示する。また，その日の課題の解答，教師用指導書，参考書，タブレットなど学習の助けになるようなものを教卓において，生徒が自由に使えるようにする。

『学び合い』授業の流れは，指示（５分）で，本時の課題，なぜ『学び合い』をするのか，全員の課題達成が目標であることを語る。その後『学び合い』（40分）では，机間巡視をしながら，良い動きをしている子を全員に「可視化」する。最後の振り返り（５分）では，何人が課題を達成できなかったか，本時の学びの良かった点，課題を確認し，次回以降どのようにすれば全員達成に近づけるかを確認して終わる。

課題の設定は，上位２割の生徒が15分程度で達成できる程度の難易度にする。そのことにより，まだ達成できていない生徒に教える時間を確保することができ，達成する生徒が指数関数的に増えていく。

当該フリースクールでは，調査期間中，理科（全員），数学（２年男子１女子１，１年女子１）の，それぞれ週二時間の授業で『学び合い』を行った。調査初期には学年にこだわって学習を展開する様子が見られたが，次第に学年にこだわらず，誰とでも関わって学習活動を展開する姿が見られるようになった。

3．4　調査内容

(1) 生徒全員につけたICレコーダーによる発話，会話の記録

授業時間の中での記録をとる。会話の内容については，岡沢ら（2015）[5]に準拠し，表１に示す３つのケースに分類した。それらの事例を事例１～３に示す。

表１　会話の内容による分類

課題の会話	学習課題の解決を目的とした会話
じゃれあい	学習課題に関係のない会話
課題とじゃれあいの会話	課題に関する話題とじゃれあいとが混在した会話

①事例１のような，学習課題の解決を目的とした会話を「課題の会話」とした。
②事例２のような，学習課題に関係のない会話を「じゃれあい」とした。
③事例３のような，課題に関する話題とじゃれあいとが混在した会話を「課題とじゃれあいの会話」とした。

表２　事例１　課題の会話

SW ：これ　なんで仕事０（ゼロ）なの？ RM ：みかんは水平に動かしていて，垂直方向に動いてないからじゃない？ SW ：う〜〜〜ん

表３　事例２　じゃれあい

SW ：ハローワーク（アナ雪のパロディの動画）見たいね。 RM ：〇〇先生，これ見ても全然笑わないよ。 SW ：笑いのツボが，（私達と）違うよね。

表４　事例３　課題とじゃれあいの会話

YT ：修学旅行で何食べる？ OE ：抹茶パフェが良いんじゃない？ YT ：ちょー楽しみだね。 OE ：で，ここ教えて？ YT ：これオームの法則のあの式使えば良いよ。

(2) ビデオカメラでの授業の記録
授業時に教室の前方後方に１台ずつビデオカメラを設置し，記録する。
(3) 生徒と教師にインタビューとアンケートを実施する。

３．５　分析方法

・ICレコーダーから，授業の場面で，どのような会話が行われているかプロトコル分析を行う。
・動画を基に生徒同士の関わり合いについての検討を行う。
・生徒や教職員，生徒の保護者のインタビューの発話内容を質的に分析する。

４　結果と考察

４．１　分析１

(1) 目的
授業中の生徒の会話の変容を明らかにする。
(2) 分析方法
授業中の生徒の会話プロトコルを時系列に並べ，表１のカテゴリーによって会話の内容を分析する。
(3) 分析対象
生徒８名

①事例４は，中２の数学で初めての『学び合い』の授業の様子である。二人とも数学は苦手ではないが，積極的に勉強しようとはしない。すでに実施していた理科では本時の課題提示を教師側で行っていたが，数学ではちょっとチャレンジして，３月までに教科書を終わらせること確認し，生徒自身で課題を決めてもらった。今までと違う課題の提示に戸惑っている様子でもあったが，それ以上にこの時間はやる気がなかった。ただ，その後，教師側で課題を提示すると，時折落書きをしながら課題に取り組んだが，二人のじゃれあいはほとんどなかった。

表５　事例４　数学で初めての『学び合い』

教師：今日はどこ（教科書のページ）やる？ YT ：（無言） OE ：（無言） 教師：私が決めても良いよ。皆さんで決めても良いよ。 YT ：（無言） OE ：（無言）どうする？ YT ：（無言） 教師：じゃ今日は私が決めて良い？ YT ：（無言でうなずく） OE ：（無言でうなずく）

②事例５は中２の数学の場面である。この日はじゃれあいは見られたが，課題に取り組むにはかなり時間がかかった。その後も，落書きをしてじゃれあいを見せながら，課題に取り組んだ。

表６　事例５　落書きしながらじゃれあい

教師：今日はどこ（教科書のページ）やる？ YT　：（無言）教科書を見ている。 OE　：（無言）ノートに落書き中 教師：（今日の課題）どうする？私が決める？ YT　：（無言）教科書を見ている。 OE　：（無言）ノートに落書き中。 YT　：（無言）一緒に落書きを始める。 教師：（私が）決めて良いかな？ OE　：うん。 YT　：（無言）

③事例６は中２の数学の場面である。この日は中２女子が休んでいたため，たまたまインターンシップで来ていた大学生と二人で『学び合い』をさせてみた。すると，大学生は数学が苦手で，YTに授業開始早々質問をしてくるため，YTは当初は照れながらも，嬉しくなったのか，いつもよりも積極的に授業に参加していた。授業後の私の質問にも笑顔で答えていた。おそらく，YTはこの日の授業で『学び合い』の楽しさを実感したと思われる。その後，数学や理科でも積極的になり，今では予習もするようになってきている。

表７　事例６　中２男子と大学生の『学び合い』

大学生：これはどうやるの？ YT　　：こととここが錯角だから，ここも70°でしょ。 大学生：錯角って何だった？ YT　　：（教科書に指を指して）これこれ。 （中　略） 教師　：今日は頭使ったでしょ？ YT　　：（無言でうなずく） 教師　：脳みそがアクティブだったね。 YT　　：（笑顔で）疲れた～。

④事例７は，異学年合同の理科の授業の場面である。始めは複数でゲームの話しで盛り上がっていたが，次第に課題に取り組み始め，最後までゲームの話をしていた生徒に，課題をやるように催促をしたところである。その後は一緒に課題に取り組んでいた。

表８　事例７　じゃれあいながらも１対１で課題に戻る

NS　：先生！マインクラフト（パソコンゲーム）入れた。 教師：まだ入れてない。 NS　：もう，早く入れてよ。 MR　：（マインクラフトは）学校（の授業）でも取り入れているんだよ。 NS　：そうだよ。早く入れてよ。入れるって言ってたじゃん。 MR　：そろそろやるか。 NS　：早く！勉強にもなるんだよ。 MR　：NSうるさい。早く（プリント）やれよ。

⑤事例８は，異学年合同理科である。MRとNKは理科への学習意欲は高くなく，いつもおしゃべりが多く見られた。この時はMRがおしゃべりをやめ，前に出た勉強に積極的になってきているYTに質問し課題に取り組み始めたため，NKも課題の内容で会話に加わろうとしたものだと思われる。この後はNKも一緒に課題に取り組み始めた。

表９　事例８　課題の会話を複数人で

MR　：これどうするの？わからん。 YT　：ここ（教科書を指して）に載ってるよ。 NK　：教科書読むのめんどいし。 OE　：でも全部載ってるよ。 NK　：これ（プリント）全部覚えれば良いんでしょ。 YT　：その方が大変でしょ。ははははは。 OE　：ははははは。

⑥事例９は，異学年合同理科の授業で，３年生と１年生が積極的に関わり始めた時期である。一年生の課題を聞いて，自分の一年生の時の思い出話に花が咲いていた。内容を見ると濃度の計算の所と知って，数学の苦手なWSはお手上げのような表情であったが，数学の得意なMRはできそうで，その後もしばらく一年生の教科書を見ていた。MRは授業の後半で一年生に声をかけていた。

表10　事例９　じゃれあいながらも自然に課題に戻る会話を複数人で行う

教師：一年生の課題は水溶液だよ。三年生も受験勉強になるんじゃない？
WS ：そこぜんぜん分からない。
MR ：私もちょうど（学校にも）フリースクールにも来てないときだから，教えられないはずよ。
WS ：どうしよう。
MR ：あの時は何も勉強してなかったからな。
教師：じゃ（受験に向けて）一緒に勉強したら？
MR ：ちょっと教科書見せてもらって良い？
KS ：はい。
WS ：これ数学じゃん。
MR ：ちょっとできるかも。

４．１．１　結果と考察

授業中の生徒の会話には，

①じゃれあいを行う。
②課題の会話を１対１で行う。
③じゃれあいながらも自然に課題に戻る会話を１対１で行う。
④課題の会話を複数人で行う。
⑤じゃれあいながらも自然に課題に戻る会話を複数人で行う。

という５段階の変容が見られた。

４．２　分析２

(1) 目的

『学び合い』授業期間中の「課題の会話」「じゃれあい」「課題とじゃれあいの会話」の出現傾向を明らかにする。

(2) 分析方法

授業中の生徒の会話内容を表１のカテゴリーによって分類する。（表２）

(3) 分析対象

生徒の総数は８名だが，授業によっては２名（中２数学），３名（中１，２数学），８名（合同理科）の時がある。

表11　課題とじゃれあいの有無

授業（時限）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
生徒（名）	2	3	8	2	8	2	3	8	2	8
課題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
じゃれあい		○	○		○	○	○	○		○
課題とじゃれあい		○	○		○	○	○	○		○

４．２．１　結果と考察

ほとんどの授業で，「課題の会話」「じゃれあいの会話」「課題とじゃれあいの会話」といった学習課題の解決を目的とした会話が出現したことが明らかになった。『学び合い』の授業では「みんな」の学習課題の達成を目指し，他者とかかわりながら課題を解決していく。そのため，「課題の会話」と「課題とじゃれあいの会話」のように課題解決を目的とした会話は必然的に出現したと考えられる。

ただし，中２数学の授業では，どちらか１名の気分が落ち込むと，会話数が激減し，「じゃれあいの会話」「課題とじゃれあいの会話」は出現しないことがあった。

４．３　分析３

(1) 目的

生徒の人間関係や学習意欲の向上をアンケートから明らかにする。

(2) 分析方法
　アンケートの内容を分析する。
(3) 分析対象
　生徒８名

①質問１
　『学び合い』の授業を導入する際は，なぜこのような授業をするのか分からないという生徒が多い中，実践し続けた。しかし，だんだんと生徒達が授業に乗ってきている実感があった。12月の最後の授業でアンケートを実施すると，『学び合い』の授業に対して，全員が肯定的であった。

表12　【質問１】『学び合い』の授業をやってみてどう思いましたか？（肯定・否定に〇）

肯定 8　　否定 0
・説明することによって，自分の理解も深まったような感じがした。相手が理解してくれると嬉しいし，「もっと良い説明の仕方はないかな？」と考えるのも楽しいです。
・初めのうちは，上手く説明できなくて大変だったけど，今はどうすればわかりやすいか工夫してみたり，皆で協力しながら目標を達成したりできるのですごく楽しいです。
・人に教えるたび，自分で深く理解しようとしたり，せつめいをするのが少しずつうまくなったりして，よく分かるようになりました。

②質問２
　『学び合い』に肯定する理由として，個人的な理由よりは，『みんな』がというような，全体のことを意識した言葉が多く出てきていた。

表13　【質問２】今後の『学び合い』の授業で，個人的にがんばってみたい（挑戦してみたい）こと。

・中３の範囲だけでなく，受験のために中１，中２の範囲も復習したいです。もっと，上手く説明できるよう，頑張りたいです。
・皆に教えられるようになりたい。　　・みんなをみすてないようにがんばる。
・説明をうまくできるようにするー。　　・もっと多くの人にせつめいする。

③質問３
　他の質問では無回答の生徒がいたが，この『今の集団に足りないこと』という質問には全員が回答している。ということは，一人一人が全員とか集団という意識ができてたと思われる。また，以前は遊んでいる生徒にも声をかけなかったため，出てこなかったであろう注意するような言葉等があり，もっと良くしたい，高めたいという意識も出てきていると考えられる。

表14　【質問３】今後も『学び合い』を続けていく上で，今の集団に足りないこと。

・みんな，前のようにふざけず，真面目にやっていると思います。すごくやりやすいです。
・前はふざけている人がいたけれど，今は皆で目標達成に向けて頑張ろう，となっているので，特にないと思います。
・集中力　　・集中力。　　・集中力とか，わからない人に教えてあげる力。　　・とくになし。
・集中力とか，言葉にあらわせないけど，なんか足りない。　　・全員がまじめにしないこと。

４．３．１　結果と考察
　当初は学年別で学習が終わり，遊んでいる生徒に声をかけないことが多く見られた。そのため，理科の授業が楽しくないとの声もあった。
　しかし，次第に，周りへの気づかいや声かけができるようになってきた。アンケートでは，『学び合い』にも肯定的で，やさしく声をかけたり，注意するような言葉，また，集団を意識するような言葉も見られた。そのため，人間関係や学習意欲が向上してきていると思われる。

４．４　分析４
(1) 目的
　生徒の人間関係や学習意欲の向上を教職員の見取りから明らかにする。

(2) 分析方法
教職員にアンケートとインタビューを実施し，内容を分析する。
(3) 分析対象
アンケート教職員１名，インタビュー教職員２名

①質問４
教師へのアンケートから，生徒NSの普段見られない，がんばっている様子が見られ，喜んでいる様子が見られた。

表15　【質問４】『学び合い』の授業を参観してみてどうでしたか？（肯定・否定に〇）

肯定 1　　否定 0
・勉強に気持ちが向かないＳ君は，手早く解答すると，友達に教えていたが，友達から「NSの説明，分かりやすい」と言われ，とてもうれしそうだった。
・理解できず，解答でまずずっと考えこむ子もいるが，そういう子がどう変化していくのかが楽しみ。
・教師の潤滑油的役割，本質を分かっていないとキケンな部分もあるのではと思う。
・人と関わる，自分の意見を言う，知識を増やすよりも，社会に出たときに必要な力をつける教育法かもしれない。

②教師へのインタビュー
本校では，数学の時間は，教員総出で個別指導をしている。教員Ｏは途中から入学してきたNSが，数学の時間にやる気を出してくれないことに手を焼いていた。先日理科の異学年合同『学び合い』を参観して，そのNSが積極的に説明したり，教えてほめられ喜んでいたりする様子を見て，生徒の学習意欲の変容を認めており，『学び合い』の良さも実感していると思われる。
また，支援当初から『学び合い』に興味を示していた教員が，教員Ｏの『学び合い』への疑問に対して，教員Ｍが受け答えをしていたことより，教員に『学び合い』の考え方が浸透してきたと思われる。

表16　教師へのインタビュー

調査者：先日の授業を見てどうでしたか？
教員Ｍ：NKとNSが頑張っていましたね。
教員Ｏ：本当？
調査者：結構頑張っていると思いますよ。
教員Ｍ：NSが積極的に説明してたり，NSがYTに質問されて教えた後に，YTに「NSの説明分かりやすい」と言われて，とても嬉しそうな顔をしてましたよ。
教員Ｏ：でも（『学び合い』は）おしゃべりだけで終わったりしない？
調査者：そんな日もありますよ。
教員Ｍ：（頷く）でも，よく聞いてみると，おしゃべりだけじゃないんですよ。勉強の話ししてるんですよ。ビックリですよ。今度参観してみてください。
調査者：今度一緒に合同『学び合い』やってみませんか？
教員Ｍ：年明けにお願いします。
教員Ｏ：でも色々と準備してからじゃないとできないんじゃないの？
教員Ｍ：Ｎ先生（調査者）はほとんど何もしてないですよね。（笑）

４．４．１　結果と考察
生徒同士の人間関係や学習意欲の向上を実感していることが明らかになった。しかし，学習意欲にはまだムラが見られる。

４．５　結果と考察のまとめ
４．５．１　分析１
生徒の会話には，５段階変容が見られた。これは，桐生（2003）の３段階の変容に依拠しており，生徒は人間関係を高め合いながら学習を成立させていることが分かった。
４．５．２　分析２
全員が『学び合い』の授業について肯定的であった。自分だけではなく，他の生徒への言葉も見られることにより，集団の意識が出てきて，厳しい言葉も出てきていると思われる。よって，人間関係や学習意欲の向上が明らかになった。

4．5．3　分析３

教師は生徒の学習意欲の変容を認めており，『学び合い』の良さも実感していることが分かった。

したがって，『学び合い』の授業の中で，学習課題の解決を目的として会話し，時にはじゃれあうことを積み重ねていることから，生徒は人間関係を高め合っていることが明らかになった。

5　結論

比較的生徒同士の繋がりが乏しいフリースクールに『学び合い』の授業を導入することにより，生徒の会話や行動，学び方に変容が見られ，人間関係や学習への取り組む意欲の向上が見られた。

また，職員に『学び合い』の考え方が浸透してきており，複数教科で『学び合い』の授業を実践することによる相乗効果も期待できる。

さらに，異学年合同『学び合い』の授業により，教員の授業時数の負担を減らすことにつながり，他業務への意欲向上にもつながると考えられる。その『学び合い』の授業の導入の二次的効果により，生徒の人間関係や学習意欲がさらに高まることも期待できる。

6　今後の課題

今回は『学び合い』の授業を導入してからの調査期間がかなり短く，うまくデータが取れなかった。今後もぜひ同じ学校で継続した調査研究を進めていきたい。また，私の研究方法の稚拙（ちせつ）さを補うための，調査方法の再検討も必要であると感じた。

さらに，本校では，年が明けると，２年生男子が登校チャレンジのため，本校を去り，新たに，小学６年生が体験入学する等，また新たな人間関係を構築していかなくてはならず，今の人間関係がどのように変わっていくかが分からないため，今後も慎重に取り組んでいきたい。

引用及び参考文献

(1) 文部科学省：「平成27年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題』に関する調査」，2015.
(2) 西川純：「『学び合い』スタートブック」，学陽書房，2010.
(3) 桐生徹・西川純：「異年齢学習形態における学びの成立に関する研究」，臨床教科教育学会誌(1)，No1，pp46-57，2003.
(4) 岡沢裕治・西川純：「『学び合い』授業中の不登校児童と他の児童との会話に関する事例的研究」，上越教育大学教職大学院研究紀要 第３巻，2015.
(5) 前掲(4)

Improve Student's Human Relationship And Motivation To Learn By Introducing "Manabiai" In Free School

Takashi NAKAMOTO* · Jun NISHIKAWA**

ABSTRACT

The purpose of this research is to clarify the transformation of human relations and learning motivation of each non-attending school student by introducing "Manabiai" classes in free school. We conducted and analyzed the conversation records and interviews of the students and teachers of the free school and the questionnaire. As a result, it was found that human relations and motivation for learning are improved.

* Tomigusukushiritu Iraha Junior High School ** School pedagogy system